

# 短期大学における教育課程での新聞を用いた社会福祉教育の効果の一考察

## One Consideration of the Effect of Social Welfare Education Using Newspapers in the Curriculum at Chugoku Junior College

(2017年3月31日受理)

松井 圭三 今井 慶宗\*  
Keizo Matsui Yoshimune Imai

Key words : 新聞記事, N I E, 効果アンケート

### 要 旨

短期大学の保育学科1年生, 専攻科介護福祉専攻, 総合生活学科2年生, 情報ビジネス学科2年生・英語コミュニケーション学科2年生の5学科の学生に対し, 授業終了時に行った「N I E実践後の効果アンケート」の結果から各学科の効果の特徴を明らかにするものである。また, 福祉教育及び新聞を用いた教育における指導上の課題について考察する。アンケート回答結果の集計をもとに, 短期大学の各学科の学生が本実践を通して, 新聞を使った授業に対してどう考えているか, また新聞に対してどのような意識をもつようになったかを比較分析した。なお, 効果の測定については, 多肢選択式による量的な傾向把握だけではなく, 理由についての自由記述の内容の対比もあわせて行った。記述式回答の箇所では無回答の割合が小さくない。新聞などの文章を読む力とともに, 考えを要約して書く力の育成もさらに必要であると考えられる。授業においてレポートを作成する作業が自分にとっては役に立ったか否かは、「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は50%を超過していて, 学科による差異はほとんど見られない。新聞を使って社会福祉を学ぶことは役に立ったか否かは、「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は, 介護福祉専攻以外の各学科は50%をやや超過しているが, 介護福祉専攻では80%を超過している。

### I. はじめに

これまで, 短期大学保育学科における学生の新聞についての意識調査の分析(平成24年), 短期大学保育学科・総合生活学科両学科間の学生の新聞についての意識調査の比較(平成25年), 異なる学科・学校種間の比較(平成26年)を実施し, 短期大学における学生の新聞についての意識や活用実態について研究してきた。

それらをもとに本研究は, 短期大学の保育学科1年生, 専攻科介護福祉専攻, 総合生活学科2年生, 情報ビジネス学科2年生・英語コミュニケーション学科2年生の5学科の学生に対し, 授業終了時に行った「N I E実践後の効果アンケート」(様式は末尾の【資料】参照)の結

果から各学科の効果の特徴を明らかにするものである。また, 福祉教育及び新聞を用いた教育における指導上の課題について考察する。

### II. 研究手法

中国短期大学では, 保育学科は幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得, 専攻科介護福祉専攻(以下「介護福祉専攻」と表記)は介護福祉士資格取得, 総合生活学科は介護職員初任者研修修了, 情報ビジネス学科・英語コミュニケーション学科(合同のクラス編成であり, 以下「情報・英語学科」と略記する)は情報処理や英語に関する資格取得をそれぞれ目指している。

\*関西女子短期大学保育学科

これら各学科の学生に対し、宿題として、社会福祉関係の記事をスクラップして記事を選んだ理由と記事の要約さらに感想を書くことを課した。授業の中では、4～5人のグループをつくり、社会福祉関係の記事を用いて、記事の中に出てくる社会福祉制度・サービスを学生にインターネットなどで調べさせ、それら内容についてワークシートに整理させた。社会福祉の機関・施設についても同様に整理させた。そのうえで、その記事に対する感想や意見をワークシートに整理させ、発表を行わせた。これを授業回数15回の中で5回行った。これについてはどの学科も同条件である。

そして各学科の学生に「NIE実践後の効果アンケート」を行い、新聞記事を読んだ感想などのレポート作成作業が自分自身に役立ったと感じているか否か、新聞記事を使ったことが社会福祉を学ぶ上で役立ったか否か、新聞を以前より読むようになったかどうか、等について多肢選択式及び記述式にて回答を得た。

本アンケートは平成26年7月に短期大学の保育学科1年生、介護福祉専攻、総合生活学科2年生、情報・英語

学科2年生に対して実施したものである。回答者人数はそれぞれ、138人・11人・55人・39人、合計243人であった。回答結果の集計をもとに、短期大学の各学科の学生が本実践を通して、新聞を使った授業に対してどう考えているか、また新聞に対してどのような意識をもつようになったかを比較分析した。なお、効果の測定については、多肢選択式による量的な傾向把握だけではなく、理由についての自由記述の内容の対比もあわせて行った。

### Ⅲ. 「NIE実践後の効果アンケート」の結果

「NIE実践後の効果アンケート」の設問と集計結果は以下の通りである。

なお、質問項目とその順番は同アンケート原本の通りであるが、本研究発表で示す質問項目の番号（例えば1-1等）は、整理の都合上から一部加工している。

1-1. 各自で新聞記事を読んだ感想、記事を選んだ理由、新聞のスクラップのレポートを複数回課しました。この作業は自分にとっては役に立ちましたか。【表1】

【表1】

括弧内は学科ごとの回答数に占める割合%

	保育学科	介護福祉専攻	総合生活学科	情報・英語学科
回答用紙数	138	11	55	39
I よく役に立った	13 (9.4%)	0 (0.0%)	8 (14.6%)	8 (20.6%)
II 役に立った	71 (51.4%)	6 (54.5%)	24 (43.6%)	15 (38.4%)
III 少しは役に立った	47 (34.1%)	5 (45.5%)	22 (40.0%)	15 (38.4%)
IV 役に立たなかった	7 (5.1%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (2.6%)

(この項目に無回答・複数回答などは無し)

1-2. III以下の役にたった方に質問します。役にたった理由を記入してください。

(複数回答あり)

(1) 保育学科…該当者131人中、無回答者は22人である。

社会や時事問題を知った・理解した 28回答

新聞を読むきっかけになった・読むようになった 27回答

知識・情報を得た 24回答

福祉・保育について知った・興味を持った 15回答

文章力・考える力が身についた 9回答

ニュースを知った・関心を持った 7回答

その他 4回答

(2) 介護福祉専攻…該当者11人中、無回答者は1人である。

福祉やその対象について知った 4回答

法律を知り理解した 3回答

その他 3回答

(3) 総合生活学科…該当者54人中、無回答者は12人である。

新聞を読むきっかけになった・読むようになった 15回答

知識・情報を得た 13回答

社会について理解した 6回答

その他 8回答

(4) 情報・英語学科…該当者38人中、無回答者は13人である。

社会の出来事について知った・理解した 8回答

知識を得た 5回答

新聞を読む機会になった 4回答

ニュースを深く知った・関心が高まった 3回答

その他 5回答

1-3. IVの役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

(1) 保育学科1年…該当者7人中、無回答者は1人

【表2】

括弧内は学科ごとの回答数に占める割合%

	保育学科	介護福祉専攻	総合生活学科	情報・英語学科
回答用紙数	138	11	55	39
I よく役に立った	13 (9.4%)	0 (0.0%)	8 (14.6%)	9 (23.1%)
II 役に立った	65 (47.1%)	9 (81.8%)	21 (38.2%)	15 (38.4%)
III 少しは役に立った	50 (36.2%)	2 (18.2%)	19 (34.5%)	9 (23.1%)
IV 役に立たなかった	10 (7.3%)	0 (0.0%)	6 (10.9%)	5 (12.8%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (2.6%)

(この項目に無回答・複数回答などは無し)

2-2. III以下の役にたった方に質問します。役にたった理由を記入してください。

(複数回答あり)

(1) 保育学科…該当者128人中、無回答者27人・解答欄誤り1人であった

法律・制度を知った・分かった24, 社会福祉について知った・分かった22, 知らないことを知った21, 社会について知った・考えた10, 教科書だけよりも学習が発展した10, 分かりやすかった3, 記事をよく読むようになった2, 覚えられた, 実際の出来事に沿って学んだ, 授業で少しした, 授業の復習になった, 新たな発見ができた, 普段難しそう避けていたが分析することで面白さが分

であった

うつすだけであまり役立ったと感じなかった, 特に興味や関心がない, 読みたいと思って記事を読んだわけではない, どこがどう良いのかが分からない, ただ書き移す作業になってダルイだけ, 読んでも意味が分からない

(2) 介護福祉専攻…該当者無し

(3) 総合生活学科…該当者1人

新聞を読んでもどの記事が関係あるのか分からない

(4) 情報・英語学科…該当者1人中、無回答者は1人であった

2-1. 授業では, 社会福祉関係の記事を選び, 社会福祉関係の制度, 法律等について各自で調べました。新聞を使って, 社会福祉を学ぶことは役に立ちましたか。【表2】

かった, この機会以外触れることが無いから, 特に無し, 何をやっているのか理解できなかった, 書いていることを写しているだけだった

(2) 介護福祉専攻…該当者11人, 無回答1人

法律や制度を知った・関心を持った4, 福祉について分かった4, 介護福祉士を目指すにあたって必要であり役に立つことだから, 自分で調べることを覚えやすいから

(3) 総合生活学科…該当者48人, 無回答19人

知らないことを知った10, 社会福祉を知った・関心を持った9, 制度や法律を知った5, 介護職に就こうと思っているから, 自分で新聞から探してまとめることで分か

らなかったことが整理できた，普段新聞など見ないので見たらためになった，分からない，法律を調べたがなんの役に立つかわからない，プリントが分かりにくかった

(4) 情報・英語学科該当者…33人，無回答14人

社会福祉について知った・理解した7，知らないことを知った6，現在の日本の社会・制度が少し理解できた，自分で読むことによって頭に入ったと思う，将来自分に関係してくる問題であるから，問題等がわかった，授業で学んだこと以上に詳しく知ることができるから，よく分からなかった

2-3. IVの役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

(1) 保育学科…該当者10人中，無回答者は3人であった

内容がむずかしかった，やっていない，多くて覚えていない，いまいちわからなかった，意味が分からない，

意味があまりわからないまま書いた，内容理解ができなかった

(2) 介護福祉専攻…該当者は無し

(3) 総合生活学科…該当者6人

一つの記事を読むだけではいまいち理解できなかった，あまりよく分からなかった，まだその知識を使う場面に会っていないので分からない，どの記事が社会福祉なのか分からない，全然意味が理解できなかった，難しく理解できなかった

(4) 情報・英語学科…該当者5人中，無回答1人

社会福祉にあまり興味がもてなかった，社会福祉と関わりのある記事えらびができていないように思えたから，社会福祉に関する記事を選んでいないため，あまりそのような記事がなかった

3-1問. N I Eを実践した結果，以前より新聞を読むようになりましたか。【表3】

【表3】

括弧内は学科ごとの回答数に占める割合%

	保育学科	介護福祉専攻	総合生活学科	情報・英語学科
回答用紙数	138	11	55	39
I よく読むようになった	6 (4.4%)	0 (0.0%)	3 (5.5%)	7 (17.9%)
II 少しは読むようになった	61 (44.2%)	5 (45.5%)	17 (30.9%)	15 (38.5%)
III ほとんど読まない	46 (33.3%)	6 (54.5%)	21 (38.2%)	7 (17.9%)
IV 読まない	25 (18.1%)	0 (0.0%)	13 (23.6%)	9 (23.1%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (2.6%)

(この項目に無回答・複数回答などは無し)

3-1. II以下の読むと答えた方に質問します。読むようになった理由を記入してください。

(複数回答あり)

(1) 保育学科…該当者67人中，無回答者は10人(対象者に対して占める割合14.9%)

課題提出のため10，スクラップの課題をしていて他の記事も読むようになった7，社会のことを知るため8，新聞に興味・関心を持った5，記事に関心を持った4，情報を身につけたい4，保育・福祉に関心がある4，内容が面白い3，読むことによって発見がある2，たまにふと思う，どのページにどの記事が載っているかわかってきた

ため，同種類の記事を読んでこれまでに読んだことがあると関心が出た，関係する記事を読みたいと思うようになった，大きな字で書いてある記事にも目が行く，わかりやすく読める，新聞を読む癖が少しいた，自分のためになると気づいた，スポーツ欄に目が行く，テレビ欄だけでなく違うところも読むようになった，意識が定着されつつある，記事の題名だけでよいのであれば時間がなくても読める，授業でしたから，分からない

(2) 介護福祉専攻…該当者5人

少しは気になり始めた，暇なときに少し読んでみようという気になった，社会福祉のことに少し興味がもてた，

興味のあるところぐらいは読む、宿題がある

(3) 総合生活学科…該当者20人中、無回答者は8人  
(対象者に対して占める割合40.0%)

スクラップのレポート提出のため4、興味がわいた3、知識を得ることが出来る(出来事が理解できる)2、社会について気になるようになった、就職試験などで役に立ちそう、新聞が目にとまるようになった、なんとなく

(4) 情報・英語学科…該当者22人中、無回答者は9人  
(対象者に対して占める割合40.9%)

社会で起きていることを知るため4、読んでみて面白く感じた2、もっと社会勉強したい、テレビニュースよりも細かく分析していて勉強になる、新聞を少し見てニュースで補っている、以前より少し興味がわいた、授業で学んだ内容が載っている、就職活動のため、読解力をつける

3-2. III以上の読まないと答えた方に質問します。読まない理由を記入してください。

(複数回答あり)

(1) 保育学科…該当者71人中、無回答者は5人

新聞を自宅ですべて読んでいない31、新聞を読む時間がない16、興味・関心が無い3、面倒くさい・だるい3、インターネットで少し目を通すようになった、ニュースをみるから、テレビでニュースを知れるから、スマホアプリのグノシーで情報を得ているので、たまに関心があるものを読んだりスマホで見たりする、新聞自体が大きいから読

む気がしない、活字が嫌い、文字が多いから、字が小さいから、気になる記事がない、新聞を読もうと思わない、習慣がない、そのときだけしか読まず毎日読まないから、読むのを忘れる、一人暮らしをしているので新聞を買う余裕がない、内容が難しいから読む気にならない

(2) 介護福祉専攻…該当者6人

新聞を読む時間がない4、全部を読むことはない、わからない、iphoneで見れる

(3) 総合生活学科…該当者34人

新聞を自宅ですべて読んでいない8、新聞を読む時間がない8、無回答5、テレビ欄ばかりみてしまう、新聞よりも友人に聞いたり身近で情報を知れるようになった、テレビでニュースを知ることができる、よく分からない、その考えがない、習慣がない、読む気にならない、読まなくても困らない、あまり興味がない、文章を読むのが好きでない、新聞があまり目につかない

(4) 情報・英語学科…該当者16人中、無回答者は3人

新聞を自宅ですべて読んでいない7、新聞を読む時間がない3、ニュースは新聞よりテレビで見る、テレビニュースを良く見る、ネットでみるから、以前と比べて変わらない、見る習慣がない

3-3. II以下の読むと答えた方に質問します。この実践前と比べて、新聞を読む時間はどのくらい増えましたか。【表4】

【表4】

	保育学科	介護福祉専攻	総合生活学科	情報・英語学科
対象数	67	5	20	22
I 5分未満	21 (31.3%)	0 (0.0%)	4 (20.0%)	4 (18.2%)
II 5分以上10分未満	24 (35.8%)	2 (40.0%)	7 (35.0%)	9 (40.9%)
III 10分以上15分未満	17 (25.4%)	3 (60.0%)	5 (25.0%)	4 (18.2%)
IV 15分以上20分未満	2 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)
V 20分以上	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)
無回答	2 (3.0%)	0 (0.0%)	3 (15.0%)	4 (18.2%)
対象外の回答 (III・IVの者の回答)	7	1	5	1

3-4. II以下の読むと答えた方に質問します。新聞はどのような記事を読みますか。【表5】

【表5】

	保育学科	介護福祉専攻	総合生活学科	情報・英語学科
対象数	67	5	20	22
I 新聞全体	12 (17.9%)	2 (40.0%)	7 (35.0%)	7 (31.8%)
II 政治経済関係	6 (9.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (4.5%)
III 家庭、暮らし関係	19 (28.4%)	1 (20.0%)	2 (10.0%)	1 (4.5%)
IV 芸能スポーツ関係	18 (26.9%)	2 (40.0%)	6 (30.0%)	7 (31.8%)
V 社会保障、社会福祉関係	9 (13.4%)	1 (20.0%)	1 (5.0%)	4 (18.2%)
VI 地元の情報関係	23 (34.3%)	1 (20.0%)	3 (15.0%)	1 (4.5%)
VII その他	7 (10.4%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	2 (9.1%)
無回答	7 (10.4%)	0 (0.0%)	4 (20.0%)	5 (22.7%)
対象外の回答 (III・IVの者の回答)	7	1	4	0

(複数回答のため学科等での合計が100%にならないものがある)

#### IV. 「N I E実践後の効果アンケート」集計結果の分析と考察

##### (1) 分析

○1-1. 「よく役に立った」という回答割合は総合生活学科及び情報・英語学科で高い。しかし、「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は各学科とも60.8%から54.5%の間にあり学科による差異はほとんど見られない。一方で、「役に立たなかった」という回答の割合は保育学科が5.1%で最も多い。

○1-2. 無回答者の割合が大きく、情報・英語学科34.2%、総合生活学科22.2%、保育学科16.8%である。保育学科「社会や時事問題を知った・理解した」21.4%、情報・英語学科「社会の出来事について知った・理解した」21.1%、総合生活学科「社会について理解した」11.1%は上位を占めている。介護福祉専攻の「法律を知り理解した」27.3%は、他学科に比し特徴のある数値となっている。また、総合生活学科の「新聞を読むきっかけになった・読むようになった」27.8%、保育学科の「新聞を読むきっかけになった・読むようになった」20.6%、情報・英語学科の「新聞を読む機会になった」10.5%等の回答は、本実践の1つの主要課題である新聞を読む習慣作りが一定程度効果を挙げていることを示している。

○1-3. 各学科とも「役に立たなかった」の回答者の割合は0.0%~5.1%とわずかであり、学科ごとの特徴は

見られなかった。

○2-1. 「よく役に立った」という回答割合は総合生活学科及び情報・英語学科で高い。「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は、介護福祉専攻以外は61.5%から52.8%の間にあるが、介護福祉専攻で81.8%と突出している。一方で「役に立たなかった」との回答の割合も総合生活学科及び情報・英語学科でそれぞれ10.9%と12.8%を占め高い。

○2-2. 無回答者の割合が大きく、保育学科21.1%、総合生活学科39.6%、情報・英語学科42.4%である。概して、各学科とも「法律・制度を知った・分かった」・「社会福祉について知った・分かった・関心を持った」・「知らないことを知った」などが大きな割合を占めている。「社会福祉を学ぶことは役に立ちましたか」という設問であるにもかかわらず、「法律・制度を知った・分かった」などの回答の占める割合が小さくなく、介護福祉専攻36.4%、保育学科18.8%、総合生活学科10.4%等となっている。

○2-3. 介護福祉専攻を除き各学科とも10%前後が「役に立たなかった」と回答している。少ない回答からおおよその傾向を見ると、意味内容が理解できなかった・興味関心をもてなかった、という記述が少なくない。

○3-1問. 保育学科、介護福祉専攻、総合生活学科はいずれも「ほとんど読まない」「読まない」の合計が過半数を占めている(51.4%から61.8%)。「読まない」との回答割合は、総合生活学科が23.6%で最多であった。一

方で、情報・英語学科は56.4%が「よく読むようになった」「少しは読むようになった」と回答している。

○3-1. 無回答の占める割合が高い学科がある（総合生活学科、情報・英語学科）。読むようになった具体的な理由が自分自身も明確ではないのかもしれない。また、総合生活学科の「スクラップのレポート提出」が4で対象者に対して占める割合は20.0%、保育学科の「課題提出のため」が10であり、対象者に対して占める割合が14.9%である。これら回答をしている者は、授業での課題の提出が無くなった後も新聞を読むことを継続できるか不明である。新聞を活用した授業の効果が表れている回答は、「スクラップの課題をしていて他の記事も読むようになった」、「社会のことを知るため」、「新聞に興味・関心を持った」、「記事に関心を持った」などがある。また、保育学科において「保育・福祉に関心がある」が4で、対象者に対して占める割合が6.0%にとどまっていることも特徴として挙げられる。

○3-2. 保育学科での「新聞を自宅ですべて読んでいない」31と「新聞を読む時間がない」16が大きな割合を占めている。介護福祉専攻の「新聞を読む時間がない」4、総合生活学科の「新聞を自宅ですべて読んでいない」8・「新聞を読む時間がない」8、情報・英語学科の「新聞を自宅ですべて読んでいない」7・「新聞を読む時間がない」3も、それぞれ学科内で上位を占めている。

○3-3. 介護福祉専攻以外では「5分未満」と「5分以上10分未満」を合計した回答割合が55.0%から67.1%である。介護福祉専攻は対象数が5回答にとどまっていることが比率の算出に影響していると考えられる。「15分以上20分未満」と「20分以上」を合計した対象回答数は0から4であり、それぞれの割合も5%以下である。

○3-4. 「芸能スポーツ関係」は各学科とも40.0%から26.9%を占めていて高い割合である。「新聞全体」を読むという回答が保育学科以外では31.8%から40.0%を占めているが、保育学科は17.9%にとどまっている。保育学科は、「地元の情報関係」34.3%、「家庭、暮らし関係」28.4%が高い割合を示している。「政治経済関係」は各学科とも10.0%未満である。「社会保障、社会福祉関係」は総合生活学科が5.0%であるが、他は13.4%から20.0%を占めている。各学科とも順位の高いものから数えて3番目以下である。

## (2) 考察（分析のまとめ）

記述式回答の箇所では無回答の割合が小さくない。新聞などの文章を読む力とともに、考えを要約して書く力の育成もさらに必要であると考えられる。

授業においてレポートを作成する作業が自分にとっては役に立ったか否かは、「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は50%を超過していて、学科による差異はほとんど見られない。新聞を使って社会福祉を学ぶことは役に立ったか否かは、「よく役に立った」と「役に立った」を合計した割合は、介護福祉専攻以外の各学科は50%をやや超過しているが、介護福祉専攻では80%を超過している。介護福祉専攻は回答者数が11人であるという事情も考慮すると、これらについては明確な差があるとは言い難い。

ただし、保育学科や介護福祉専攻では、レポート作成作業が自分自身に役立ったと感じているか否か・新聞記事を使ったことが社会福祉を学ぶ上で役立ったか否かに関しての理由の記述において、現在学んでいる領域（保育・介護）と関連させて、「福祉・保育について知った・興味を持った」（保育学科）・「福祉やその対象について知った」（介護福祉専攻）のように回答している者が少なくない。具体的には、「詳しく知ることができた」、「教科書だけではわからなかったことも身近に存在することとして理解できるようになった」、「介護福祉士を目指すにあたって必要であり役に立つ」など肯定的な意見を記入している。

総合生活学科や情報・英語学科も肯定的な意見が主であるが、「社会で何が起きているのか知ることができた」や「知らなかったことを知った」など社会一般について知る・理解するという傾向が見られる。本研究では社会福祉を素材としていることから、保育学科・介護福祉専攻と総合生活学科・情報・英語学科との間において、日常的に学んでいる科目内容の相違が学生の学科間の意識の違いとして現れていると考えられる。

なお、無回答者の割合の小さくなかった項目がある。本アンケートにおいて、設問の意図が分かりにくいものや、選択肢が十分でなかったものがあつたことも一因ではないかと考える。例えば、選択肢では、設問1-1や設問2-1において「どちらともいえない」・「あまり役に立たなかった」・「全く役に立たなかった」、また設問

3-問において、「変わらない」・「もともとよく読んでいる」・「読まなくなった」などを設けるべきであったと考える。今後の改善が必要と考える。

## V. お わ り に

これまでの研究から、新聞を日常的に読んでいる学生が少ない、新聞が学生にとって身近ではない、社会福祉・社会保障を含め国の制度・政策に関する記事に注目する者も少ない、法制度や政治過程に対して大学教育等の中で目を向けさせることが必要である、などが明らか

になっている。

この効果アンケートを用いて行った社会福祉教育の効果の集計結果の分析からは、この取り組みによって学生が新聞を以前よりは読むようになっていることが窺えるが、そのほかの面ではこれまでと同様の傾向を示している、従前の研究が裏付けられていることがいえる。効果アンケートの結果も踏まえ、短期大学段階としての教育の中で、新聞を読む習慣をつけ、新聞を学習に活用する姿勢を身につけさせる工夫をしていかなければならない。より良い新聞活用の実践を展開することが必要である。

【資料】…アンケート用紙の形式

2014年7月吉日

### N I E 実践後の効果アンケート

1. 各自で新聞記事を読んだ感想、記事を選んだ理由、新聞のスクラップのレポートを複数回課しました。この作業は自分にとっては役に立ちましたか。

I よく役に立った      II 役に立った      III 少しは役に立った      IV 役に立たなかった

2. III以下の役にたった方に質問します。役にたった理由を記入してください。

( )

3. IVの役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

( )

2. 授業では、社会福祉関係の記事を選び、社会福祉関係の制度、法律等について各自で調べました。新聞を使って、社会福祉を学ぶことは役に立ちましたか。

I よく役に立った      II 役に立った      III 少しは役に立った      IV 役に立たなかった

2. III以下の役にたった方に質問します。役にたった理由を記入してください。

( )

3. IVの役に立たなかった方に質問します。役に立たなかった理由を記入してください。

( )



3. N I E を実践した結果、以前より新聞を読むようになりましたか。

- I よく読むようになった      II 少しは読むようになった      III ほとんど読まない      IV 読まない

1. II 以下の読むと答えた方に質問します。読むようになった理由を記入してください。

( )

2. III 以上の読まないと答えた方に質問します。読まない理由を記入してください。

( )

3. II 以下の読むと答えた方に質問します。この実践前と比べて、新聞を読む時間はどのくらい増えましたか。

- I 5分未満      II 5分以上10分未満      III 10分以上15分未満      IV 15分以上20分未満

V 20分以上

4. II 以下の読むと答えた方に質問します。新聞はどのような記事を読みますか。

- I 新聞全体      II 政治経済関係      III 家庭、暮らし関係      IV 芸能スポーツ関係

V 社会保障、社会福祉関係      VI 地元の情報関係      VII その他 ( )

